

大平さんの憶い出

川 又 克 二

大平さんの憶い出として今日でも私の印象に残っているものは、私の長男の結婚披露宴の席上、来賓としてお願いしたお祝辞のすばらしかったことであります。後に総理になられてから「アーウー」などと国会答弁の様相がマスコミに伝えられました。決してそのようなものではなく、式場の緊張が一ぺんにほぐれて和やかな空気に変わってしまったくらい流暢で洒脱味の豊かなものであります。

それからしばらくの後、私も春芳会に参加させていただいて月一回の例会でお話をうかがうことができるようになり、そして大平さんは私どもが思っていたよりも早々と総理になりましたが、春芳会は続いておりました。表向きのお付き合いではありましたが、大平さんはケレン味がないというか、いってみれば政治家ずれをしていないお人柄だということを感じました。地味ではあるが、誠実さからくる親しみが感じられる人でありました。そのようなお人柄であったから、あらゆる問題を自分一身に背負い込み、非常に負担に感ずる生真面目さがあったということであり、これは大平さんの政治姿勢にもよく現われていたように思われます。

大平さんは日本の国際的な立場、経済的対応を考える場合、アメリカを自由国家群のリーダーとして認識し、日本の貿易、平和、安全について日米関係が深く深い関係にあることを、単に日本の立場だけでなく、常に世界的な視野に立って理解を示しておられました。私は大平総理が米・加・墨三方国訪問に旅立たれる直前の春芳会で、日米自動車問題が喧伝されていた折柄だったので、「総理はカーター大統領と自動車問題を話し合われます

か」とお聞きしたのですが、「こちらから出すつもりはない。アチラが出すかも知れないが、君のところは工場進出を決めてくれたので助かるよ」と顔をほころばせておいでになりました。その後、帰国されてからのお土産話の席上では、私が「どうもアメリカは困ったものですね。次から次へと要求が出てきます」と申し上げたところ「いや君そいつな。日米関係を考えれば多少わがままでなと感じてもそこはがまんしなくては」といった意味のことをいわれたのですが、言葉つきからも心からそのように思われているふしがかがえたのでありました。

七月九日日本武道館で行われた内閣・自民党合同葬に際して、アメリカのカーター大統領、中国の華国鋒首相をはじめ各国特使高官が多数参列されたことは、まさにわが国にとっては画期的なことでありました。しかもカーター大統領、華国鋒首相が弔問のため瀬田の亡き大平さんのご自邸を訪問されたことは、大平さんの誠実な人間味に対するカーターさん、華国鋒さんの高い評価と強い信頼感の現われといってもよろしいと思います。

内政面では常に内に主流反主流の反目が絶えず、外に与野党勢力伯仲の状況下にあつて円滑な議会運営に苦勞が多く、その負担は重く大平さんにのしかかっていたものと思われまふ。内閣不信任を受けて解散、異例の衆参同時選挙の陣頭指揮に立ったその日に倒れ、選挙の帰趨、日一日と迫ってくるベネチアサミット出席への責任感等、心の休まる暇なく、ついに劇的な急逝をされたことは誠に痛ましいことであつたと申し上げざるを得ません。しかしながら選挙の結果は自民党が両院で多数を占めることができ、これまで日本の繁栄の基礎をなした自由主義経済、自由市場経済は一転して安泰なものとなり、財界、産業界などまさに安堵の胸をなでおろしたことで、これは大平総理が死をもつてあがなつたものであり、大平総理は自らを犠牲として日本の民主政治と自由主義経済を守つたといわざるを得ないのであります。恐らく後世の史家は、日本の生んだ偉大な政治家の一人として、その生涯について永く伝えるに違いありません。

(日産自動車会長)